
16 <水球陣>七帝戦第5戦

H26.8.24 対京都大学 @京都大学プール

京大 1 4 2 3 計10

東大 1 2 2 1 計6

得点者：桐生(1)、浪間(4)、山田(1)

七帝戦最終戦は優勝を争って京都大学と戦う。二週間前の京大戦では勝利したとはいえ相手は新チームだった。四年生にとっては引退試合となるこの試合で勝って有終の美を飾ることができるか。

第1ピリオド

ピリオド序盤、緊張感に包まれる中、両チームなかなか点が入らない。均衡を破ったのは京大。5m付近から巧妙なループシュートを決められる。一方の東大は浪間が退水を誘発し、これを主将の桐生が決める。その後もカウンターなどでチャンスをつくるが決めきれず、このピリオドは同点で終える。

第2ピリオド

ピリオド開始早々、東大はフローティングからの得点を許す。しかし、直後のカウンターのチャンスで山田がループシュートを決め追いつく。その後二本のバックシュートから失点した東大は、さらにカウンターから失点する。ここで東大はタイムアウトをとり、一度ゲームを落ち着かせる。この後ディフェンスからリズムをつくった東大が浪間の得点で一点を返し、試合は後半へ。

第3ピリオド

二点差で迎えたこのピリオド、東大は浪間が粘ってシュートを決めて一点差とするが、直後に失点してしまう。これ以上離されたくない場面で決めたのはまたも浪間。鮮やかにバックシュートを決める。だが東大は、再び直後に失点し流れに乗れない。その後、攻め続けた東大だったがラストシュートを決めきれずに二点差のままピリオド終了。

第4ピリオド

二点差を追いかける東大は、立て続けに失点して四点差をつけられる。得点がほしい東大は浪間がシュートを決め三点差に。その後もゴールを狙い続けるが京大のディフェンスを最後まで崩すことができず6-10で試合が終了した。

試合前半は集中したディフェンスからリズムをつくり、オフenseも要所で決めて追いつける展開だったが、泳げなくなり前半のような集中力が続かなかった第三ピリオドに一気に離されてしまった。この敗戦を糧に、来年の七帝戦王座奪還を達成すべく新チームとしての練習にも励みたい。監督を務めてくださった三宅さん、応援してくださった林さん、戸根川さん、阿内さん、飯塚さん、堀江さん、有吉さん、ありがとうございました。

(文責 山田直人)
